

## 枯損のメカニズム

蔵王地蔵山頂付近に生育していたオオシラビソは、平成25年(2013年)に葉が褐色に変化し、調査の結果蛾の一種であるトウヒツヅリヒメハマキの幼虫による葉の摂食とわかりました。トウヒツヅリヒメハマキは天敵の蜂により減少しましたが、樹勢が衰えていた中、トドマツノキクイムシにより幹の穿孔を受け、地蔵山頂付近では16ヘクタールにわたりオオシラビソが枯損しました。



### トウヒツヅリヒメハマキ

2013~2016



森林総合研究所東北支所提供

### トドマツノキクイムシ

2016~2020



## オオシラビソ

マツ科モミ属の常緑高木。本州中部以北に分布。北限は青森県八甲田山。蔵王、八幡平、八甲田、森吉山の樹氷は有名。別名:アオモリトドマツ。



林野庁 東北森林管理局  
山形森林管理署

〒 991-0053  
山形県寒河江市元町1-17-2  
電話 0237(86)3161



令和5年5月26日 樹氷復活県民会議ワーキングチーム

# オオシラビソ再生への取組

令和5年(2023年)5月

林野庁東北森林管理局  
山形森林管理署



東北森林管理局広報誌  
「みどりの東北」スマホ版アクセスQRコード

## 被害地の状況

オオシラビソは、厳しい気象環境も相まってか、山頂付近で一斉に枯損しました。被害地では、今後の種子の供給が見込まれず、林床もササに覆われているため、速やかな後継樹への代替わりを図るには、人為による林地への種子や苗木の供給や、ササの刈払いによる光環境の改善が必要と見込まれます。



地蔵山頂付近の枯損状況(近景)



地蔵山頂付近の枯損状況(遠景)



試験区画  
(蔵王ロープウェイ地蔵山頂駅付近)

## 自生稚樹の移植

被害を免れた低標高地には、自生したオオシラビソの稚樹が生育しており、山頂付近の強風や低温といった厳しい環境下でも生育が可能かどうか、自生稚樹を掘り取って山頂付近に移植する試験を行っており、成果が得られれば後継樹を育成する手法の選択肢となります。



自生稚樹の試験移植



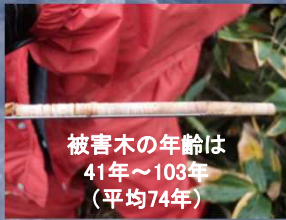
厳しい冬を越した稚樹

## 再生対策の検討等

- ・ オオシラビソの枯損が発生した山形・宮城両県の国有林を管轄する東北森林管理局は、「蔵王地域におけるオオシラビソの枯損に係る検討会」を設置して、有識者の参画を得て再生対策を検討しています。
- ・ 国立研究開発法人森林総合研究所によるトウヒツヅリヒメハマキの発生状況のモニタリングや試験移植への技術指導が行われています。
- ・ 令和4年(2022年)8月に山形県で開催された山の日全国大会で、官民一体の組織として令和3年(2021年)5月に設立された「アオモリドマツ再生会議(仮称)」を改組して樹水復活に向けた県民会議が設立されることとされ、令和5年(2023年)3月13日に「樹水復活県民会議」が設立されました。



ササに覆われた林床



被害木の年齢は  
41年~103年  
(平均74年)

## 地域による再生への取組

自生稚樹の移植や種子の採取等オオシラビソの再生に向けた取組は、地域からも大きな関心をいただいております。「再生会議」による取組への参加や、家族ぐるみでの体験活動行事、地元児童・生徒による学習活動が展開されています。



地元小学生への森林教室



親子参加による自生稚樹の  
試験移植体験



再生会議メンバーによる  
現地活動



「樹水復活県民会議」  
設立会議



山の日全国大会 in 山形  
大会シンボルマーク



山の日全国大会にあわせて実施した地元小中学生  
による稚樹移植(署員による作業実演の様子)



播種試験  
(金網でネズミの食害から保護)

## 種子の採取・播種試験

後継樹の育成には、種子を発芽させ育苗していく手法も考えられます。山形県森林研究研修センターと協力して、豊作年に採取した種子の貯蔵や発芽の方法に関する知見を得るための試験に取り組んでいます。



オオシラビソの球果



球果(種子)の採取